

新聞記事を活用した持続発展教育について話す
道関校長＝福井市のアオッサ



持続発展教育に新聞を

本年度の県小学校長研修会の分科会がこのほど、福井市のアオッサで開かれ、勝山市の公立全12小中学校が取り組

む「NIE(教育に新聞を)を活用したユネスコスクールの持続発展教育(ESD)」が報告された。新聞を情報発信に活用して、児童が地域を好きになる効果につなげる事例が紹介された。
勝山市は「ふるさと教育の推進」を中心に据えESDに取り組んでいる。報告者は荒土小の道関直哉校長で、14人が聴講した。道関校長は「NIE」と

県小学校長研修会 勝山市小中の報告

「ESD」を掛け合わせた「新聞を活用した持続発展教育(NIEESD)」の導入を提案。「その活動で子どもに地域を好きになろう」というメッセージを伝えていく」と紹介した。湿原で刈り取ったヨシをストローにしたり、大量出投するクマの生息を学んだりする各校の事例を挙げながら「勝山市には地域学習の素材となる教材がたくさんある。地元の魅力発見を通して児童の郷

郷土愛育成を後押し

土愛を育み、環境保全意識につなげている」と説明した。活動が新聞で紹介されることで「学校から地域を変えていく」というメッセージが発信できると強調。新聞を見た保護者や地域住民から児童が「偉いね」など言葉をかけてもらえるとし、「教員も自信を持って活動できる。学校への信頼感の向上にもつながる」と述べ、「福井の教育の特色になれば」と呼び掛けた。

発表を受け、参加者はグループに分かれて意見交換。全小中学校での実践に「先生がどこの学校に異動しても同じベクトルで取り組めるのがいい」などの声が出ていた。ふるさと教育について「地域の人たちの出番があるし、子どもたちの達成感もある。地域の歴史や文化の学習には、持続発展教育の視点が大事」との意見が出ていた。
研修会には県内小学校の校長が参加し、「リーダー育成」や「豊かな人間性」などを研究課題に13の分科会が開かれた。(藪内弘昌)